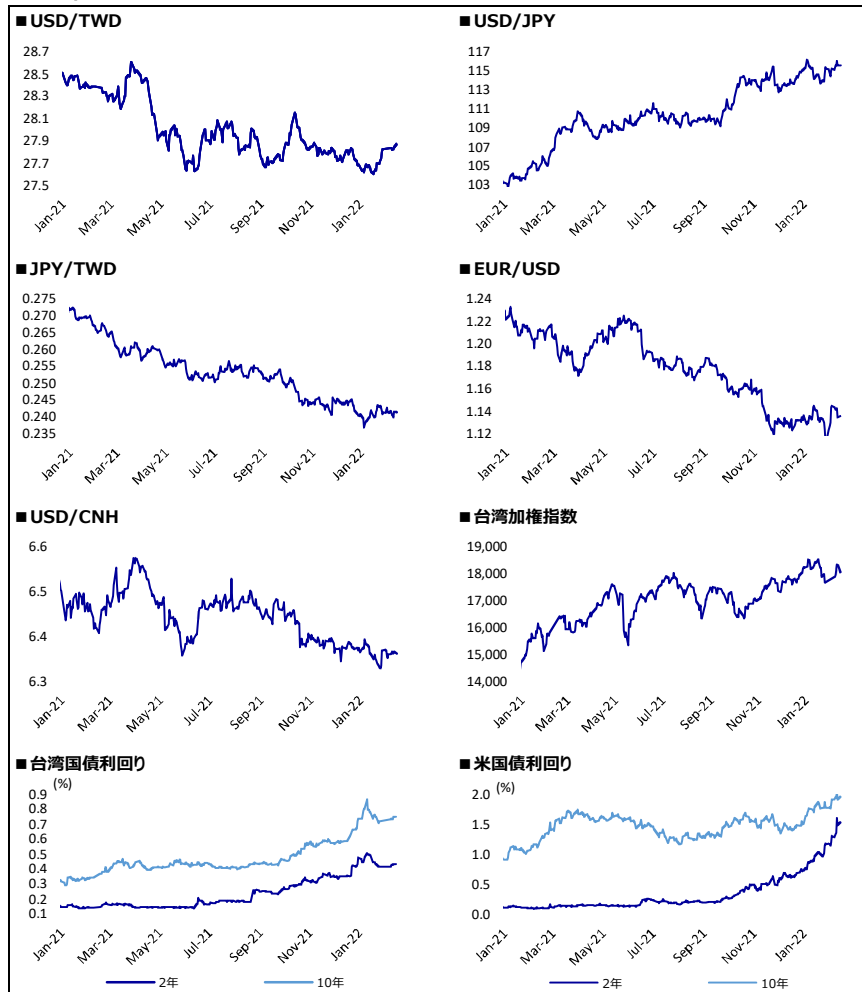


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルはレンジで推移。週初2/7は27.810でオープン後、台湾株の上昇につられて一時27.770まで続いても勢いは続かず、外国人投資家のドル買いが強まると27.84付近まで上昇。2/8も台湾株が上昇し、台湾加権指数が18,000ポイント台に回復するも、米金利が上昇する中、国内外の投資家のドル買いが強く、下値は限定的に。2/9は台湾株の上昇と共に外国人投資家の台湾ドル買いが入ったものの、原油価格の上昇から輸入企業のドル買いも拡大し、揉み合う展開に。2/10は米CPIを控え様子見となったが、2/11は米CPIが予想を上回ったことから米金利が上昇したことを受け、一時27.859まで上昇したものの、輸出企業のドル売りに上値は押さえられ27.84付近の推移となった。最終的には先週比0.1%ドル高台湾ドル安の27.846で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式買い越し額は155.0億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円は上昇。週初2/7は115.27でオープン後、先週末の米雇用統計を受けて上昇した米金利にサポートされ、115円台前半で推移。2/8も米長期金利の上昇にサポートされ115円台半ばまで上昇したが、2/9は翌日に米1月CPIの発表を控え様子見ムードが強まり、レンジ相場に。2/10は米1月CPIが発表されると予想を上回ったことから、利上げ期待が高まりドル円は116円台に。米10年債利回りも上昇し一時2.05%をつけると、ドル円も116.34まで上昇。しかし、ドル買い一巡後は、米金利の上昇を嫌気して米株が下落するとドル円も次第に下落し、115円台後半に戻した。2/11は東京市場が休場のため、閑散とした取引となったが、ウクライナ情勢に関する報道が入るとリスクオフの流れとなり、一時115円ちょうど近くまで下落したが、115円は割れず、次第に戻すと、最終的に先週比0.3%ドル安台湾ドル高の115.52で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：27.750-27.950
先週末にウクライナ情勢への警戒感が高まっているものの、メインの話題は米金利の動向である。リスクオフで一旦低下した米金利ではあるが、再び上昇する局面では先週のように国内外の投資家のドル買いが進むとみられる。ただし、上値では輸出企業のドル売り意欲も旺盛であり、大きくレンジは抜けないであろう。

■ USD/JPY 予想レンジ：114.50-116.50
足許はウクライナ情勢への警戒感から米長期金利が一旦低下し、米1月CPIで上昇したドル円も戻された。今週については、1月のFOMC議事要旨が公表される。3月の利上げを0.50%や年内の利上げ回数増加を市場の中では予想する声もあり、タカ派な内容であれば、早期利上げ期待が高まり、ドル円も上昇するであろう。

今週の予定

2/14 (MON)	
2/15 (TUE)	米1月PPI、米1月NY連銀製造業景況指数
2/16 (WED)	米1月小売売上高、米1月鉱工業生産、米1月分FOMC議事要旨
2/17 (THU)	米1月住宅着工・建設許可件数
2/18 (FRI)	

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。